

資料 1 薬剤師のキャリアパス懇談会について

厚生労働省医薬局総務課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

薬剤師問題検討会「中間報告書」（2003年）（抜粋）

あるべき薬剤師の役割

- ・ 薬剤師の業務については、まだ十分に行われていないところがあるという指摘があることを踏まえ、国民に良質の医療を提供する観点から、薬剤師の役割を、単なる調剤のみならず、医療の担い手としての原点に立ってその役割を確認する必要がある。
- ・ 薬剤師の役割は、最適な薬物療法を責任を持って提供すること（薬学的ケア）にある。また、今日では、医療の範囲が診断・治療のみにとどまらず、保健・予防からリハビリ・終末ケアにまで広がってきており、薬物療法に関連する薬剤師の実務上の責任範囲も広がってきている。
- ・ 患者に最適の薬物療法を提供するためには、薬剤の調製、患者への服薬指導を行うにとどまらず、薬剤の交付後における患者の服薬状況を確認するとともに、実際の治療の一部として期待される薬物療法の効果が得られているか、薬剤による副作用が発生していないかについて確認し、医療関係者に適切なアドバイスを行う必要がある。
- ・ また、服薬指導を行うにあたっては、医薬品の効能・効果、副作用等について十分に患者の理解を得る必要があるとともに、患者が適切に服薬することができるように配慮するべきである。そのためには、医薬品の効能・効果、副作用等について画一的に情報提供するのではなく、患者とのコミュニケーションや薬歴管理などを通して、個々の患者の病態を理解し、さらには患者の心理状態、社会的背景等を踏まえた上で行うことが重要である。
- ・ さらに、医薬品の専門家として、薬物療法に関する情報の収集及び科学的根拠に基づいた評価を行い、個々の患者に対する治療計画の中で、医師の処方に際し適切なアドバイスを行うとともに、状況に応じて批判的な観点を持つこと、薬物療法に関して疑問を有する患者に対し適切に対応することなども求められる。
- ・ また、医療安全についても国民の関心が極めて高くなっているが、医療事故の中で最も多いのは薬剤に関連するものであることを認識し、医療サービスの提供過程で起こりうる事故のリスクの軽減に対し、医薬品の専門家の立場から貢献していくことが必要である。
- ・ また、一般用医薬品の販売に当たっては、薬剤の管理はもとより、他の医薬品を服用していないか、アレルギー体質でないかなどの確認を行い、適切な情報提供を行うとともに、必要に応じて受診を勧めるなど、**国民が自らの健康を改善し維持しようとする努力を適切にサポート**することが求められている。
- ・ 一方、製薬企業等においては、患者・医療現場のニーズを踏まえた有効性・安全性の高い医薬品の開発、医薬品の副作用情報等の関係者への迅速かつ適切な提供等を行うにあたり、指導的役割とともに主体的な貢献をも果たすことが期待されている。
- ・ さらに、医薬品の開発に関し、病院・診療所における倫理的かつ科学的な治験の実施のため、医薬品に関する知識に基づく治験薬の評価、副作用の予測など薬剤師の専門性が発揮されることが期待される。
- ・ このように、薬剤師には、最適の薬物療法の提供、服薬指導、医療安全対策、**一般用医薬品の適正な販売、医薬品の開発**など幅広い分野における役割があるとともに、**在宅医療、介護、地域保健等**に対しても、他の医療関係者と連携を図りつつ、医薬品の専門家としての貢献を図る必要がある。これらの役割を果たし、チーム医療の一員として社会のニーズに応えるためには、まず、薬剤師に求められる能力が何であるかについて考察を行う必要がある。

日本学術会議（薬学委員会）による近年の提言等（薬剤師関係）

薬剤師の職能将来像と社会貢献（2014年1月20日 提言）

- ・ 薬剤師は医療提供と創薬の双方を担う専門職であり、医療の高度化・多様化（バイオ医薬、再生医療等）、医療二重の複雑化等を踏まえ、求められる役割（※）が急速に拡大・変化。
※①医療現場での役割の高度化（薬物療法の質・安全性向上に貢献、②地域医療・社会への貢献（医療だけでなく生活・保健への関与拡大）、③創薬・育薬・行政への関与（開発から市販後まで一貫した関与）
- ・ 医療現場の課題を研究・創薬につなぐ医療イノベーションの中核人材として、**臨床力+研究力を兼ね備えた Pharmacist-scientistの養成が重要。**
- ・ 薬剤師の活躍領域は広範であり、**キャリアパスに関する考え方（多様なキャリアの整理）**と制度化が必要。
- ・ 人材育成には、6年制教育を基盤とした大学院教育の充実、臨床研究の推進、卒後教育（レジデント制度の整備、生涯教育の体系化）、専門性向上（専門薬剤師制度の整備・質保証）が重要。

社会に貢献する医療系薬学研究の推進（2017年9月29日 報告）

- ・ 薬学は総合科学であり、医療系薬学研究の目的は薬物治療の最適化（臨床への直接貢献）。
- ・ 6年制導入後、臨床に根ざした研究の重要性が増大し、臨床の課題を研究で解決する役割が薬剤師に拡大。
- ・ 研究領域は医療系が約7割と主流だが、臨床研究・TRはまだ限定的。臨床と基礎の連携不足、社会人大学院生（臨床薬剤師）の受入不足等の課題あり。
- ・ リバース・トランスレーショナル・リサーチにより、臨床の課題を基礎で解明し、創薬・治療への展開に期待。そのため、①研究体制（大学と臨床現場の連携強化等）、②研究基盤整備、③**人材育成（Pharmacist-scientistの養成）が必要。**

持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽（2020年9月4日 提言）

- ・ 持続可能な医療の実現には、薬剤師の職能強化と生涯研鑽が不可欠。
- ・ 薬局薬剤師は依然として調剤中心で患者への価値提供が十分でなく、医療機関と薬局間の患者情報共有が不十分、6年制教育は整備されたが、卒後研修や生涯教育は体系化が不十分。認定・専門薬剤師制度は乱立し、基準や質保証が統一されておらず、レジデント制度も未整備（医師のような必修制度がない）といった課題を踏まえ、以下を提言。
① **薬剤師の地域医療への積極的関与（地域・在宅・多職種連携に参画、健康支援・予防への関与強化）**
② **患者情報の共有基盤整備**
③ **卒前・卒後教育の一体化、一貫した教育体系を構築、臨床と研究を両立する人材（Pharmacist-scientist）育成**
④ **認定・専門薬剤師制度の改革として、制度の整理・標準化、第三者機関による質保証**
⑤ **レジデント制度の整備や卒後初期研修の制度化を検討し、臨床能力を体系的に育成**

厚生労働省におけるこれまでの取り組み

日本学術会議提言に記載されているキーワード

地域医療、患者情報の共有基盤整備、Pharmacist-scientist、認定・専門薬剤師の第三者機関による質保証、レジデント制度（卒後臨床研修）、キャリアパスに関する考え方

地域医療、患者情報の共有基盤整理

- 薬剤師の養成及び資質向上に関する検討会（R3.6）
- 薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ（R4）
- 薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会（R6）
- 健康・医療・介護情報利活用検討会 医療等情報利活用ワーキンググループ（R2-）

認定・専門薬剤師の第三者機関による質保証、レジデント制度（卒後臨床研修）

- 令和6～7年度 厚生労働科学研究「専門薬剤師の機能評価のための研究」 研究代表者：益山 光一
→（報告書）専門薬剤師等認定制度のあり方について、第三者機関による質担保および単一名称の導入が必要
- 令和7年度 厚生労働省医薬局総務課補助事業「薬剤師キャリア形成調査検討会」 委員長：安原 真人
→（報告書）卒後臨床研修を普及させる方策として、研修修了歴を認定制度要件に算定可能にするなど認定資格取得への優遇措置（単位要件の緩和、経験年数の削減など）が挙げられた
- 令和6～7年度 厚生労働省医薬局総務課補助事業「薬剤師臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業」
委員長：石井 伊都子
→（報告書）指導薬剤師育成のための講習会の開催及び臨床研修実施施設の可視化を通じた新人薬剤師のキャリア形成支援の実施

薬剤師卒後臨床研修に関わる議論の積み重ね

2025年度 厚生労働省医薬局総務課補助事業（委員長：安原真人）
「**薬剤師キャリア形成調査検討会**」

2024-2025年度 厚生労働省医薬局総務課補助事業（委員長：石井伊都子）
「**薬剤師臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業**」

2023-2024年度厚生労働省医薬局総務課補助事業(代表研究者：山田清文、分担研究者：渡邊大記、橋田亨)
「**薬剤師のキャリア形成促進に関する研究**」

薬剤師臨床研修ガイドライン
令和6年3月厚生労働省

2021-2023年度 厚生労働省モデル事業が日本病病院薬剤師会に委託（委員長：石井伊都子）
「**卒後臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業**」

2020年日本学術会議 提言
薬学委員会薬剤師職能とキャリアパス分科会
持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽（研究協力者：橋田 亨）

2019-2021年度
厚生労働行政推進調査事業(代表研究者：山田清文、分担研究者：橋田亨)
「**薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究**」

2014年11月 日本薬剤師レジデント制度研究会 発足

2013年度 厚労科研6年制薬剤師の排出を踏まえた薬剤師の生涯学習プログラムに関する研究（代表研究者：乾 賢一、分担研究者：橋田 亨）
「**新たな卒後臨床研修の構築に関する研究**」

2012年度 日本病院薬剤師会学術委員会学術第6小委員会（委員長：橋田 亨）
「**卒後臨床研修としての病院薬剤師レジデント制度に関する 調査・研究**」

2012年3月 第1回薬剤師レジデント交流会（神戸中央市民病院）開催

2009年 神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤師レジデント募集開始

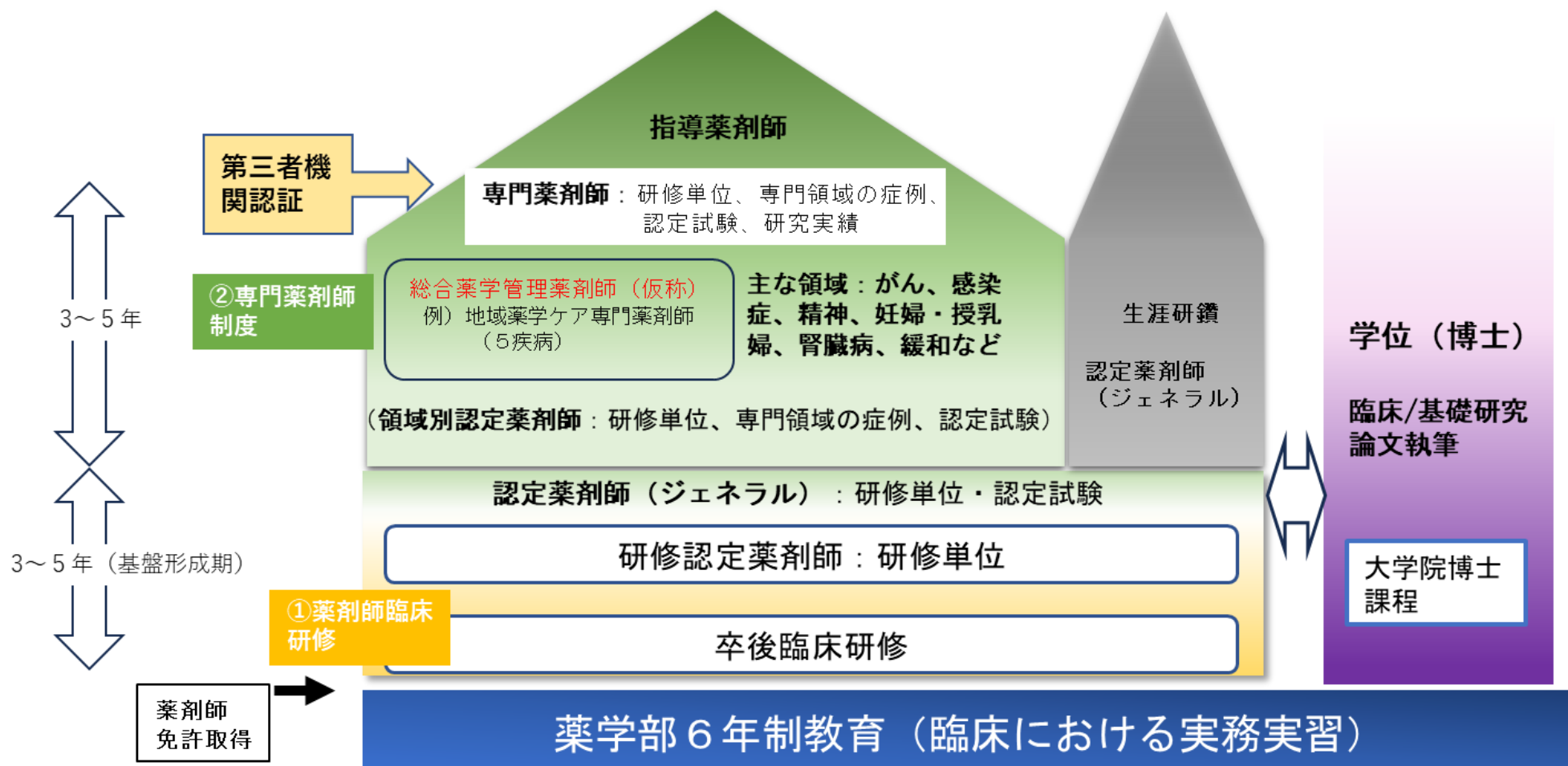
2002年 北里大学研究所病院がわが国で初めて 薬剤師レジデント プログラムを開設



第34回日本医療薬学会年会シンポジウム22
「臨床能力を有した薬剤師の育成に向けた卒後教育とキャリア形成」（神戸市立医療センター中央市民病院 院長補佐 橋田 亨先生）発表スライドより一部改変

薬剤師のキャリア形成の全体像

目的：質の高い薬物治療の提供と国民の健康増進に寄与する



※令和6年度厚生労働科学研究費補助金「専門薬剤師が医療の質に与える効果とその評価に関する研究」総合研究(益山班)報告書より

2. 今後の政策に向けた視点

- **官民をあげて、次世代の創薬を担う多様なプレイヤーを育成する。**
 - 薬学等におけるデータサイエンス、治験、GMP/QMS等の医薬品開発等の視点を含めた卒前・卒後教育を通じた創薬人材の養成に取り組む。
 - 問題意識を共有できる民間企業と大学が連携し契約学科の活用等、産学連携による実用化人材の育成に取り組む
 - バイオ製造人材を含めた製造人材の育成は、一つの力であり、高専学生や理系学部学生など将来的に医薬品製造を担う人材にこの分野の関心を持ってもらう取組、リ・スキリングによる人材の養成等を含めた支援に取り組む。

成長戦略17分野における「主要な製品・技術等」

戦略分野	主要な製品・技術等	選定の考え方	方向性
合成生物学・バイオ 経産省	①バイオものづくり	素材・食品・エネルギー等の新たな製法として、2030-40年には約165兆円の経済効果。バイオマスや廃棄物等の国内資源を活用でき、サプライチェーンの特定国・地域への依存低減に貢献。	発酵産業の蓄積等で強みがある実験・製造工程に加え、AI・データ活用や革新的な基盤技術開発により設計・解析工程を強化し、高効率な製造技術を確立する。経済安全保障や脱炭素の観点で重要な製品の初期需要創出の取組等を促進することにより、国内生産基盤の構築につなげる。
	②バイオ医薬品・再生医療等製品等 ※創薬・先端医療③と同じ	拡大する医薬品市場(2022年に約200兆円)で、バイオ医薬品・再生・細胞・遺伝子治療等の比率は約4割。国民の健康や生命に直結し、健康医療安全保障上、供給途絶リスクを低減する自律性確保が急務。	iPS細胞や抗体薬物複合体等の技術基盤の強みを活かし、開発・製造受託の実績を積み上げることなどを通じ、国内生産基盤を維持・構築し、国内の医療ニーズに応えるとともに、創薬ベンチャーのグローバル展開を促進し、海外市場の獲得につなげる。
創薬・先端医療 内閣府(健康医療)、デジタル庁	①ファーストインクラス※1製品・ベストインクラス※2製品(医薬品、再生医療等製品) ※1 全く新しい作用で世界で初めて承認されるもの ※2 同じ作用の製品の中で有用性が最も優れるもの	世界の医薬品市場は2022年時点で約200兆円に達し、ファーストインクラス製品・ベストインクラス製品を含む特許品の世界市場(日本を除くG7)は、年平均9.6%で拡大。また、ファーストインクラス・ベストインクラス製品の供給確保を通じて、治療法が未確立の疾病にも対処することは、国民の健康の維持、健康医療安全保障の実現に直結。	基礎研究力や高品質な治験の強みを活かし、実用化を担う人材の育成・流動性向上や、リスクマネーの呼び込み等によるスタートアップや国際共同治験における資金面・制度面の課題解消を図る。これにより、新たな創薬シーズの創出から実用化まで一貫通貫で進める環境を整備し、需要が拡大する海外市場の獲得につなげる「世界直行型」の開発を実現する。
	②感染症対応製品	ワクチン、治療薬等は、供給が途絶すれば国民の生命に直結するものであり、健康医療安全保障上、供給途絶リスクを低減する自律性確保が急務。平時と有事の需給変動が大きいため、生産体制の安定的な維持が難しい。抗菌薬は原材料・原薬の調達に特定国に極度に依存する品目があり、免疫グロブリンは原材料や製造能力不足により平時から国内自給できていない。一部の海外メカファーマが撤退している抗菌薬等の新薬や我が国が強みを有する診断薬等の感染症対応医薬品の海外展開により、一定の世界シェア獲得が見込まれる。	我が国は、供給計画遵守力の高さや生産技術、測定技術等の強みを有している。感染症対応医薬品の研究開発や製造施設の整備、ワクチン・抗菌薬等の買上げ・備蓄、安定供給に資する措置の推進、原料血漿確保体制の強化を通じて、需要創出とともに生産体制を安定化させることで国内に供給するとともに、技術力を活かした高品質な製品を輸出する。
	③バイオ医薬品・再生医療等製品等 ※合成生物学・バイオ②と同じ	拡大する医薬品市場(2022年に約200兆円)で、バイオ医薬品・再生・細胞・遺伝子治療等の比率は約4割。国民の健康や生命に直結し、健康医療安全保障上、供給途絶リスクを低減する自律性確保が急務。	iPS細胞や抗体薬物複合体等の技術基盤の強みを活かし、開発・製造受託の実績を積み上げることなどを通じ、国内生産基盤を維持・構築し、国内の医療ニーズに応えるとともに、創薬ベンチャーのグローバル展開を促進し、海外市場の獲得につなげる。
	④革新的デバイス(AI、ロボティクス等)を活用した先端医療	医療機器産業は、世界市場約80兆円、成長率6%超の有望市場である一方、0.7兆円の輸入超過。また、国民の生命に直結するデバイス(例:心臓、肺、腎臓等の機能を代替する機器)等について、サプライチェーン含めて安定提供を確保することは、健康医療安全保障上、極めて重要。日本企業が技術的優位性を有する医療機器の開発は、戦略的不可欠性の確保にも寄与。	診断機器分野では、画像技術を中心に高い競争力を持つが、AI技術の進展を迅速に取り込むため、産学官連携のオープンイノベーションコア拠点を強化し、世界市場に展開する。治療機器分野では、高い操作性等の技術力が評価されるが、資金調達の課題等により実用化が進んでいないため、AIによる技術革新を好機と捉え、イノベーションエコシステムや資金調達環境を構築し、世界市場の獲得を目指す。
	⑤ライフログデータ等を活用したヘルスケア関連サービス	ウェアラブルデバイス等を用いたデジタルヘルスサービスの世界市場規模は現在約70兆円であり、2034年には350兆円規模と見込まれる。健康医療安全保障の観点から、「攻めの予防医療」により国民が生涯にわたり元気に活躍できる社会を実現し、社会保障制度を含めた社会の支え手を確保することが必要(健康課題による経済損失の軽減にもつながる)。個人の健康データの情報保護の観点から、セキュリティの確保が必要。	優れた医療データや緻密なデータの収集実績、光学センサや画像技術等の技術の強みを活かしつつ、ヘルスケアサービスの予防・健康づくりの効果に係るエビデンスを構築し、企業・保険者がサービスを選びやすい環境を整備する。併せて、ヘルスケアサービス活用のインセンティブを強化することで、質の高いヘルスケアサービスの社会実装を進め、国内市場を拡大し、中長期的には海外市場に展開する。

- (1) 薬剤師のキャリアパスの全体像の整理
- (2) 医療、創薬等を含む薬剤師の多様なキャリアに対応した専門性のあり方と、卒後・生涯研鑽を通じた一体的な養成体系の構築に向けた論点整理
- (3) 持続可能な医療・社会に貢献する薬剤師教育研修プログラム
の検討
- (4) その他